防府市に移住して幸せます HOFU BRAND な人々。

ただ一つの醤油を目指して

地域とともに

周りの暖かさに支えられて　留学の夢を応援

（右）桑田　浩志（くわた　ひろし）さん
（左）桑田　麻衣子（くわた　まいこ）さん
家族構成：夫婦、子（2人）
職業：桑田醤油有限会社　代表取締役
ＨＰ：http://sugidaru-shouyu.com/

Q.防府市に移住したきっかけは？

浩志さん：東京の大学へ進学し、卒業後、広告代理店に勤務していましたが、帰宅できる時間が遅く、起きている子どもに会えるのは休日だけ…そんなハードな生活をしていました。「家族との時間がもてる暮らしをしたい」という思い、そして「家業を継ぐ」というタイミングが丁度重なったので防府に戻ってきました。
麻衣子さん：東京から夫について防府にきました。初めてここに来るまでは、「田んぼがいっぱいで、お隣さんの家までは何ｋｍか離れている。近くにスーパーとかも無い。」そんなイメージをもっていたので、実際に来てみると丁度良い街もあって、いい意味で期待を裏切られました（笑）。

Q.防府市に移住して苦労したことは何ですか?

浩志さん：実家の会社の状態を確認することなく帰ってきたのですが、いざ会社に入社すると見事なほどの赤字会社で、当時の給料は東京の時の4分の1になりました。あれから11年、毎年、少しずつ会社の業績を伸ばすことができたので今は笑って話せますが、当時は本当に大変でした。妻に申し訳なくてしょうがない状態でしたね。
麻衣子さん：当時は、貯金を切り崩して生活をしていました…。

Q.防府市に住んでみてよかったことは?

麻衣子さん：ご近所さんとの繋がりが深く、いろいろな場面で助けていただいています。特に子育てはしやすいですね。
浩志さん：住んでいる地区の人みんなが顔を知っている。そしてなにかしらの関わりをもっている。そんな環境が地域の防犯にも役立っていると感じます。毎日を安心して暮らせるのはこの地域の魅力です。

Q.地域とどのように関わっていますか?

浩志さん：毎年のように小学校の授業で子どもたちが醤油蔵に見学に来たり、私が学校へ醤油博士みたいな感じで出張授業に行ったりしています。
麻衣子さん：「醤油屋の一日」をよりたくさんの人に知ってもらえるように、まずは地元の子どもたちが進んで見に来てくれる醤油蔵になれるといいな、と思っています。
浩志さん：先日醤油蔵に来た子どものお母さんが、「うちの子が桑田醤油さんで体験したことをすごく楽しそうに話してくれました。貴重な経験をさせていただき有難うございました」と声をかけてくれました。家に帰った後、そんなふうに醤油蔵の話をしてくれているのは嬉しいですね。

Q.今後の目標をお聞かせください。

浩志さん：「うちは全国的にも珍しい木桶仕込みの醤油蔵なので、木桶の醸造文化を次の世代、また次の世代に繋いでいきたい」と思っていますし、「県内でこの使命を全うできるのは桑田醤油しかない」とも思っています。真っ直ぐ正直な醤油づくりをして、山口県で一番愛される醤油蔵になるのが私の目標です。「都会で勝負して、会社を大きくしたい」最初はそんな気持ちもありましたが、ここで仕事をし、お客様と触れ合っていくうちに「山口県の中で勝負したい」という気持ちが強くなりました。現在は都会の百貨店や食料品店からお取引の相談を頂ける事も増えましたが、地元中心というスタンスを貫くと、なかなかそのご期待に添えないというのが現実です。21本という限られた本数の木桶では、どうしても製造量に限りがあるんですよね。可能な限り山口の大地で育った原材料を使用し、木桶の中で山口の四季を感じながら育った、この土地でしか醸せないオンリーワンの醤油を、一人でも多くの山口県に縁のある皆様に使ってもらえたら、これほど幸せなことはありません。

Q.最後に、防府市の魅力を教えてください。

浩志さん：会社員として帰ってくるにしても、起業するにしてもローリスクローリターン、そんな場所です。自分の力を試すには良い環境だと私は思います。ここで腕を磨いた後に「世界へ飛び出す」ことも「地元密着で頑張ると決める」ことも できると思います。夢への第一歩を防府から歩み出してほしいですね。

工藤　寛之（くどう　ひろゆき）さん
家族構成：本人、妻、子（３人）
職業：ぶどう農家

Q.防府市に移住したきっかけは？

生まれは九州で、父の転勤で転々としました。最終的に防府市に家を建てたため、ここに定住することになりました。

Q.就農したきっかけを教えてください。

農業は人と接することがないというイメージだったのですが、あるいちご園に行ったときにお客さんと接しながら販売もしていて、いい職業だなと思いました。防府市にある山口県立農業大学校の就農のカリキュラムを、1年間受講し、卒業後、農家で1年半研修を受けて、防府市で就農しました。ぶどう農家を選んだのは、農業大学校で果樹の指導をしてくださった先生がぶどうの魅力を語ってくれて、それが面白そうだと思ったので。
農地はもともと耕作放棄地で20年くらい何も作っていない土地を借りて整地したので、生えていた木を切ったり、勾配をそろえたり、石垣をくずしたりといった作業に1年くらいかかり、大変でしたね。でも、実際ぶどうをやってみると先生がおっしゃっていたとおり、面白いですね。

Q. 就農するときに支援制度は利用されましたか?

国の制度である青年就農給付金を、5年間ほど運転資金として受けています。果樹というのははじめて3年から4年くらいでやっと木が大きくなるので、収入がすぐにあがるわけではなく、大きくなるまでは野菜などを作って生活していました。

Q.地域とどのように関わっていますか?

地域おこし協力隊の活動（藍染による地域おこし）のお手伝いをしています。他にも、山口型放牧といって、農業大学校や、県の畜産試験場から牛を借りてきたりして耕作放棄地で放牧しています。牛が生えた草を食べてくれて、また使える農地にもどすという活動を、地域のみんなでやっていますね。

Q.防府市の魅力を教えてください。

住みやすいというのもそうですし、新規就農でがんばっている人を応援しようとする気持ちがすごくある優しい方が多いですね。すごく助かっています。

Q.最後に、今後挑戦したいことはありますか?

ぶどうの加工所を設置したり、食べるところがないのでカフェをやったり、観光農園としてお客さんが来たときに長く楽しめる場所にしたいと考えています。

河村　明毅（かわむら　あきたけ）さん
家族構成：本人
職業：Pizzeria Bel gioco（ベルジョーコ）経営
ＨＰ：http://www.facebook.com/belgioco42/

Q.防府市に移住したきっかけは？

山口県美祢市の出身で、東京の大学に進学しました。飲食をしたいという思いがあったので、大学卒業後は都内の有名店やイタリアで修行をしていました。
資金や技術面などで店を持てる状態になったと思ったので、実家のある美祢市の近くで店舗を構えようと思って近隣を探していたところ、自分の頭の中で抱いていたイメージが実現できると思った店舗が防府市で見つかったので移ってきました。

Q.防府市に移住して苦労したことは何ですか?

防府市に知り合いがひとりもいなかったことです。例えば東京でお店を出したなら友達に「食べに来てよ」と言えるけど、それができないのが怖かったですね。自分の出すナポリピザは“美味しい”と自信を持って出していけるのですが、それだけで来てもらえるか分からなかったので。
店舗デザインをしてもらったデザイン会社さんや店舗を借りるためにお世話になった不動産会社さんに親身にしていただいて、そこから派生して人の輪が広がっていきました。

Q.出店するときに支援制度は利用されましたか?

金融機関に融資をしてもらうにあたって、防府商工会議所に推薦状を書いてもらったり、借りるための段取りをしてもらったりしました。商工会議所で道筋を立ててもらえたのは助かりました。

Q.地域とどのように関わっていますか?

イタリアンは地産地消を重んじているので地元の食材に関しては、近くの魚屋さんやお肉屋さんが親身にバックアップしてくれています。また、お客さんが紹介してくれた農家さんに作ってほしい野菜があるとお願いすると、じゃあ作ってみようと言ってくれて、そういった地域の繋がりができています。
あとはピザ教室を開いたり、小さな子どもに食べる楽しさを教えたくて、ピザ釜が珍しいので興味をもった子どもと一緒に焼いたりしています。これからもっと地域貢献をやっていけたらと思っています。

Q.最後に、防府市の魅力を教えてください。

魚や肉、野菜が安くて美味しい。食材はすごく魅力的で、人もすごく優しいと思います。知り合いのいない中で起業しましたが、周りの方がちらしを配ってくれたり、お客さんが持って帰って友達に配ってくれたりと、周りの方が暖かかったのは大きかったです。
山口県内でも住みやすいまちだと思います。右田ヶ岳は僕の中ですごいな、きれいだな、こんな景色なかなか見られないなと思っています。景色的にはすごく面白いし、生活には困らないし、ライフラインは整っていますね。

（左）石村　真澄（いしむら　ますみ）さん
家族構成：本人、夫、子（1人）
（右）深海　麻里子（ふかみ　まりこ）さん
家族構成：本人、夫
職業：café glebe（カフェ グリーブ）経営
ＨＰ：http://cafeglebe.blogspot.jp/

Q.防府市に移住したきっかけは？

石村さん：防府出身で高校卒業後、愛知県の大学へ進学して1年間オーストラリアへ留学していました。大学卒業後1年ほど働いて、再びオーストラリアに留学したのちに防府市に戻ってきました。
深海さん：防府出身で高校卒業後、福岡県の大学へ進学して卒業後防府市に戻ってきました。
私もワーキングホリデーでオーストラリアに行っていた時期もあります。

Q.カフェを起業したきっかけを教えてください。

石村さん：一旦防府市を出て、6年ぶりくらいに帰ってきたときに意外と地元って楽しくて、防府っていいなと思ったんです。ただ、外に出ていたので、こういうものがあったらもっと楽しくなるんじゃないかなと思う部分もあって。
深海さん：私はもともと起業したい気持ちがあって、それを知っていた石村さんとどちらからともなく。
石村さん：深海さんが飲食に興味があったのを知っていたのと、深海さんを含めた友人同士で将来のことを話をしていて、「カフェやるのもいいじゃん」と言ったときに、地元にないものじゃないかと自分で実感しました。この場所をつくりたいと思ったので、一緒にやってみないかと。

Q.今後挑戦したいことはありますか？

石村さん：今やっていることなのですが、オーストラリアに留学したい人のサポートをしていきたいと思っています。地元防府をはじめとして山口にそういったサポートをしている団体がないらしいので。私も留学をするときに相談できる人がいなかったんです。留学の面に関しては、相談する場所がないので、若い頃にそういった場所があれば、いろんなチャンスがあったんじゃないかなと感じたので。

Q.最後に、防府市の魅力を教えてください。

深海さん：山もあって海もあって、両方楽しめるところです。あと、どこか行きたいなと思ったら、車で福岡にも広島にも行けることですね。魚がすごく美味しいです。
石村さん：子育てをしやすいと思います。支援もですが、緑もあって、車でどこでも行きやすい。都会だと車で入りにくいところがあって、ベビーカーで電車やバスを利用しないと行けない場所があるけど、防府は道路が整備されていて車で移動できますね。若い人には子育てしやすいまちではないかなと思っています。